

# 答辞

本日、ここに卒業の日を迎えることができて、修了生一同大変嬉しく思っております。ご多忙のところご臨席を賜りました先生方、ご来賓の皆様、修了生を代表して心より御礼申し上げます。

「役立つ化学、役立てる化学」というスローガンに惹かれて入学してから六年が経ちました。振り返ると非常に充実した学生生活を送ることができました。学部時代は専門性の高い座学で身に付けた知識を実験で応用することで、より深く広く化学を学ぶことができました。また、所属していた学園祭運営サークルや応用化学会の学生委員会では、个性的な仲間たちに出会えただけでなく、普段関わることでできない校友の方々や大学職員の方々と連携し、一つのイベントを作り上げることの達成感を得ることができました。

学部四年次からは、炭素などのありふれた元素から優れた機能を持つ材料を合成し、社会実装を見据えた研究をしたいという思いで化学工学部門の研究室を選びました。しかし、研究室生活が始動した直後、コロナウイルスにより自宅待機を余儀なくされ、社会に対する不安、そして今後の研究生生活に対する不安を抱えながら過ごしてまいりました。そのような状況でも大学の的確で迅速な対応により、対面とオンラインを併用しながら充実した研究活動を行えたことに心より感謝して

います。

大学院での研究では、ナノ材料の合成を行っていましたが、精密に構造を制御することは非常に難しく、努力が成果に表れず苦しい時期もありました。先生方や研究室の仲間達とディスカッションを重ね、考察・実験を繰り返すことで、研究者としての姿勢を身に付けることができました。また、研究発表では専門の異なる研究者とも積極的に議論することで、多角的な視点を持つことの重要性を学びました。充実した研究環境の中で、机

上では学ぶことのできない多くの貴重な経験を積むことができました。

私たちは本日ももってそれぞれの道に進みますが、早稲田大学の応用化学科で得た経験を忘れることなく、より一層精進して参ります。

最後になりますが、真摯にご指導くださった先生方、共に学生生活を過ごした友人、支えてくれた家族、お世話になった全ての皆様に感謝申し上げます。そして、応用化学科のますますのご発展を願い、答辞とさせていただきます。

二〇二三年三月二十六日

早稲田大学 先進理工学研究科

応用化学専攻 修士二年 中村汐里